

4.25の25周年 東京で反迫害パレード

25年前の1999年4月25日、中国の北京では、不当に逮捕された法輪功学習者（以下、学習者）の釈放等を求める陳情が行われた。この陳情は「4.25」（※）とも呼ばれる。

世界各国の学習者は毎年この時期に集会やパレードを行い、法輪功への迫害を訴えてきた。日本でも今年4月21日、4.25の25周年として東京でパレードを行った。

当日午後3時半、このパレードは、天国楽団の演奏を先頭に花川戸公園を出発し、浅草、雷門、隅田川などの観光地を行進した。沿道では、手を振ったり、学習者から資料を受け取り、迫害についての説明に耳を

傾ける人も多かった。

市民からの応援

バスを待っていた岡本さんは、図書館で資料を読んで法輪功への迫害を知ったという。中国では、学習者が中国共産党（以下、中共）から拷問を受けていることも知っていた。さらに中共による学習者の生体臓器狩りについて伝えると岡本さんはひどく驚き、学習者に「頑張ってください」とエールを送った。

飲食店を営む山本さんは、中国でこうした反迫害活動ができないことについて、「自由に言葉が出せない中国という国はおかしい」と述べ、「頑張ってください」と応援した。



■東京・浅草で反迫害パレード

外国人観光客からの応援

学習者が迫害について伝えると、イタリア人のチェーザレ・マツェッティさんは「誰もこんな酷いことをするべきではないと思います。皆さんがこの酷い迫害を止めることができる」と信じています」と答えた。

アメリカ人のテイラー・マグナスさんは「酷いですね。誰もが自分の信じるものを自由に実践できるはずで、生きている人から臓器を（強制的に）摘出することは人権侵害で、どんな理由で行わ

れようと許されるべきではありません。信念を持って歩み続けてください。私は学習者の皆さんが修煉方法を自由に選択できることを支持します」と語った。

ベトナム人学習者のラムさんがフランス人のリノさんに「中国で起きている迫害を皆さんに知ってもらうためにパレードしています。学習者は、今も中共に迫害されています。私たちは、世界中の人々に迫害の実態を知ってもらうと呼びかけています」と伝えると、リノさんは「皆さんを支持します」と答え、ラムさんと記念撮影した。



（※）「4.25」とは

ある出版物に法輪功を誹謗中傷する記事が掲載されたことが発端。その編集者に学習者が自らの体験を説明し訂正を求めたところ、警察は学習者に暴行を加え45人を逮捕。

天津当局に釈放を求めると、中央政府（北京）に行くようにとの回答を得たことから、学習者は自主的に北京の陳情事務

所に向かった（1999年4月25日）。

訪れた学習者は1万人にも達するが、組織化されて集まったわけでもなく、スローガンも掲げず、警察の誘導に従い整然と並んでいた（後に中共はこれを学習者が『中南海（中共の中核があるエリア）を包囲した』と主張）。この時は警官に暴力的に扱われることもなく、うち数名が朱鎔基

首相に対面して陳情した。

海外メディアからは「中国で最も大規模、最も理性的・平和的、最も成功した陳情」と称賛され、平和的に解決したかと思われた。

しかしその3ヶ月後（7月20日）、当時の江沢民国家主席の決定により、中共は法輪功への迫害を公に推し進めた。25年後の今もなお、迫害は続いている。



■陳情に並ぶ学習者（1999年4月25日、北京）

豊田市の桜祭りで法輪功を体験

愛知県豊田市の水源公園で3月30日と31日、第30回桜祭りが開催された。コロナの影響で5年ぶりの開催となった今回は学習者も参加し、法輪功について人々に伝えた。数日前までは気温が低かったが、この日は天気恵まれた。

男性から応援

参加準備中に通りかかった中年の男性に学習者が挨拶し、中国で法輪功が迫害されていると説明した。するとその男性は「法輪功を知っていま

す。以前、中国での迫害についても聞きました」という。学習者が、中共は学習者から移植用の臓器を強制的に摘出して利益を得ていると続けると、男性は「ああ、そうなのか」と驚き、学習者が法輪功の資料を渡すと「頑張ってください!」と励ました。

功法を体験

学習者は、ステージで腰太鼓の楽曲を演奏した。学習者の水野さん(80)は、自ら作曲した

「大浪淘沙」をバイオリンで演奏した。

そして学習者は、法輪功の5式の功法を実演した。実演にあたり、人々に「法輪功は法輪大法とも呼ばれ、真・善・忍の原則を教えるものです。5つの功法があり、動作は簡単で学びやすく、病気の治療や健康増進に効果的です。現在、世界で100以上の国と地域で広まっています。興味を持たれた方は、ぜひ体験してみてください」と紹介した。



■法輪功の功法を実演する学習者

和やかで穏やかな功法の実演を見て、観客も一緒に煉功した。

最後に、桜祭りの責任者である安藤夫妻は、参加した学習者に感謝の気持ちを伝えた。

マレーシアで「9日間セミナー」開催



■法輪功を体験する参加者

マレーシアでは3月15日から23日にかけて、法輪功を学習する「9日間セミナー」が開催された。

参加者の感想

戴さんは、このセミナーに参加できてとても幸運だと感じている。以前の戴さんは、書籍『轉法輪』を読んでも集中できず、法輪功を深く理解できなかった。しかし法輪功の教えを聞いて心身ともに向上し、「これまで探していた答えが見つかった」と語った。

劉さんは、数年前から法輪功について聞いたことがあり、チラシをもらったりしていたが、中共による法輪功への誹謗中傷を信じる人に惑わされていたという。その後、座禅している学習者に会い、好奇心に駆られて法輪功について尋ねた。今回のセミナーに参加した劉さんは、法輪功の内的な意味が精神的な向上に非常に役に立つこと、中共の中傷とは全く異なる

ことを知った。往々にして良いものは妬まれ、悪者にされるのだと劉さんはいう。これからは心を込めて法輪功を勉強すると語った。

メイさんも、中共による法輪功の中傷を聞いていたので、これまでは学習者が座禅しているところに出くわすと、回り道をしていた。しかし今年1月に学習者と偶然出会い、法輪功を学び始めた。「9日間セミナー」は今回が初めてで、最初の2日間だけ参加するつもりだった。しかし学習者の励ましもあり、最後まで参加した。最初の数日間は眠かったが、最後まで参加できたことに感謝しているという。

次回も参加希望

セミナーが終わると、参加者は次回の「9日間セミナー」への参加を希望し、お互いに心を込めて『轉法輪』を読み、心を修めることの大切さを深く理解するよう励まし合った。

濟州島でパレード 人々が迫害を理解

韓国の学習者は濟州島で3月30日と31日、中国で法輪功が迫害されている事実を人々に伝えた。

濟州島は韓国最大の島で、一年を通して温暖な地域であり、国際的にも有名な観光地の1つ。最近では中国人観光客が濟州島へのビザを免除され、中国からの観光客が特に多い。

濟州市中心部でパレード

3月30日の午前中、法輪功の天国楽団が濟州市中心部のサムド公園を出発点とし、2時間かけて新羅免税店やロッテ免税店、歩行者通り等をパレードした。

観光客や地元住民は携帯で撮影し、中には親指を立てて「素晴らしい!」と表現する人や、演奏に合わせて踊り、拍手をする人もいた。ある女性は「法輪大法は素晴らしい。真・善・忍は素晴らしい」と声を張り上げ、「中国の人々は、皆さんに感謝します」と述べた。

城山日出峯でのパレード

3月31日の午前中は、濟州島の城山日出峯でパレードを行った。城山日出峯は、濟州島の東端の巨大な岩山で、漢拏山の360の小火山のうちの一つ。そこに設置された法輪功への迫害についてのパネル資料と、天国楽団の演奏が人々の目を引いた。

人々は、中共が自作自演した「偽りの天安門焼身自殺」事件の真相や、学習者からの臓器収奪などの実態を理解した。

迫害を理解した市民

パネル資料を見た呉さんは「法輪功について聞いたことはありましたが、詳しくは知りません

でした。今日、その実態を知りました。中共がこれほど不条理なことをしているのはおかしいです。皆さんの活動を通じて、私は法輪功が非常に素晴らしい団体だと気づきました」と述べた。そして「法輪功、頑張ってください! もっと多くの人が法輪功を知りたいと思っています」と応援した。

濟州港でのパレード

最後は、濟州港でパレードした。学習者は「法輪大法は素晴らしい」、「真・善・忍は素晴らしい」、「濟州島へようこそ」、「法輪大法が伝え出されて32周年」などの横断幕を高く掲げ、船に乗る観光客に伝えた。観光客は手を振って応えた。



■濟州市中心部のパレード

漢方医 病気は「心を変えることから」



■胡乃文さん

胡乃文さんは台湾の漢方医で、今年で79歳を迎えました。他の病院で治らなかった患者が、遠くからでも次々に胡さんを訪れます。

胡さんは大学で生物学を学び、神経科学と内分泌学を専攻しました。卒業後は薬理学に移り、アメリカのスタンフォード研究所に派遣されました。ここで生命科学の研究に専念しましたが、中国医学の鍼灸に出会います。台湾に戻った胡さんは鍼灸の研究を始め、漢

方の研究を深めました。そして40歳頃、漢方医の免許を取得しました。

一方で胡さんは、「小さい頃から体調が悪く、ストレスで常に胃腸の調子が悪く、苦しんでいました」

しかし西洋医学も漢方も効果がなく、胡さんは気功を試しました。そして「50歳頃、『法輪功』という気功があると聞きました」

良い人になることから

胡さん1997年に法輪功のセミナーに参加し、李洪志先生にお目にかかりました。「李先生はどんな時でも『真・善・忍』の基準に従って良い人になり、まずはそこからスタートして、最後に圓滿成就することができる」と教えて下さいました。

やがて胡さんは、持病が治ったことに気付きました。緊張や怒りによって引き起こされた胃腸疾患も消えたのです。

「法輪功は気功でも宗教でもなく、『修煉』そのものです。そして修煉は人類文明の中で、最も奥深い領域です」と胡さんは語っています。

病気は心によって作られ、心によって変わる

ある老婦人が、胡さんの診察を受けに訪れました。彼女はキリスト教徒で、「昨日は誰々に怒った、今日はまた誰々と仲が悪くなった」等と神に毎日懺悔していると言いました。それを聞いた胡さんは、李先生の説法を思い出しました。

「『そんな忍は実行するのが難しい。わたしはかんしゃく持ちだから』と言う人がい

ます。自分でかんしゃく持ちだと分かれば、改めればいいではありませんか」[1]と李先生は語っていたのです。

胡さんは、彼女に語りました。「毎日懺悔されていても、悔いだけで改められないのではないでしょうか。それでは懺悔しても、ゼロに等しいではありませんか」

それを聞いた彼女は心を打たれ、涙を流しました。そしてその後、再び訪れた彼女は、「かんしゃくを起こすのを改めると、意外にも病気が治りました」と言いました。

胡さんは、この老婦人の事例をあげて、病気は心により作られると言います。「ガン

を含めてたくさんの病気は、漢方の理論によると、過度の喜怒哀楽や恐怖等のストレスが原因の可能性があります。そうした心の動き、名、利、情を放下できないでいることによるストレスが、病気を引き起こしたとも言えます。ですから患者と病状について話す時、生活習慣や養生法が適切ではないとも伝えますが、心の欲望や執着を捨てるようにと伝えます。そうして（患者の心が変われば）病気は治るのです」

病気そのものより、病気に對する心構えが鍵だと胡さんは考えています。

自分の心を変える

困難を乗り越える時に試されるのは正しい信念で、心が変われば状況も変わるという胡さん。患者の心に執着心があれば、「私にも同じような執着心があるのではないだろうか？」と自分の心を探そうです。「私は毎日、自分の心を探します。5人の患者がいれば、5回探します。50人いれば、50回探します。つまり診察は、私自身の心の修煉の過程でもあるのです」

こうして、自分の考えはとてもシンプルになったという胡さん。「全てのことには原因があり、それにまっすぐ向き合っ、しっかり修煉するだけです」

医療の現場で40年近く頑張ってきた胡さんは、診療のほかにも医学関連の動画に出たり、本を出版したりと精力的に活動しています。そんな胡さんに、一つの願いがあります。「若い頃は、名声や利益のために奮闘していました。ですが修煉してから、そうした執着心はなくなりました。現在の私は名利のためではなく、人々のためにあります。私は多くの人に、『法輪大法は素晴らしい』と分かって欲しいのです。これが私の唯一の望みです」

注： [1] 李洪志師父の著作：『轉法輪』

美容サロンオーナー 『轉法輪』でアルコールやドラッグをやめた

ラジェナ・ジョリーさんは、メルボルンの富裕層エリアで美容サロンを経営するヘアメイクアップ・アーティストです。かつてジョリーさんには、アルコールやドラッグの習慣がありました。

「真・善・忍」と聞いて心が震えた

「2009年に友人から初めて、法輪功のことを聞きました。法輪功の原則は『真・善・忍』だと聞いて、心が震えました。これから何があっても、いくらお金を払っても、私は必ず法輪功を修煉すると思えました。でも後で知ったのです

が、法輪功はすべて無料でした」とジョリーさん。

人生が一変

「『轉法輪』を読んで、私の人生は一変しました。私は精神的なものに惹かれてきましたが、パーティ・ガールだったためにドラッグやアルコールに戻ってしまっていました。『轉法輪』を読んで分かったのは、自らを変えなければいけないということです。私は、アルコールやドラッグをやめることにしました」

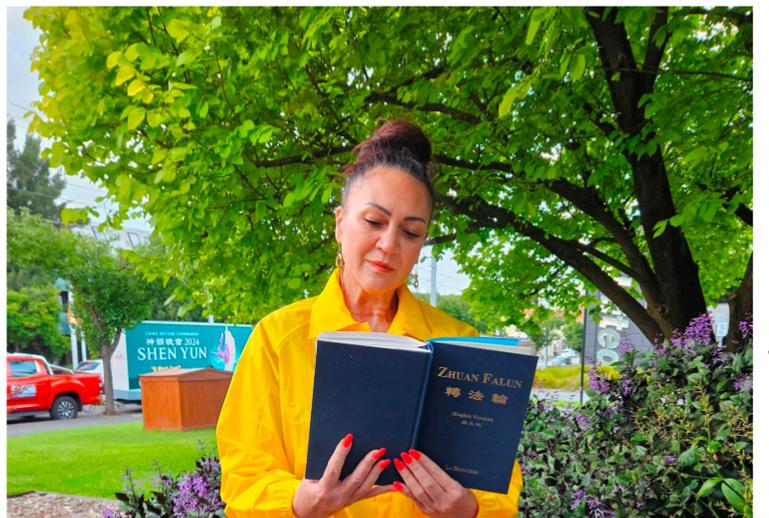
どんな時でも「真・善・忍」で

「2014年に自分の美容サロンを始めたのですが、経

営にあたって意識的に真・善・忍の原則に従っています。どんな時でも苦情やクレームがあったら、『私のどこに問題があるのか？ どうやってサービスのレベルを高めて顧客の期待に応えたいのか？ 私に取り除くべき執着心があるのではないのか？』と内に向けて自分の問題を探すようになりました」

一人一人の顧客に誠実に接するジョリーさんは、スタッフのお手本です。

「『真・善・忍』から得た智慧は、苦情を抱えた顧客にも満足感を与えることができます。トラブルが起き



■ジョリーさん

た時、一方的に相手責めてはいけません」

『轉法輪』を読んでほしい

ジョリーさんは、サロンを訪れる顧客に『轉法輪』を読

むように勧めています。「この本は、私に希望を与えてくれた大切なものです。皆さんに『轉法輪』を読んでほしいと思います。物事の見方が変わり、心が広がります。人生も変わるでしょう」

法輪功を学ぶには

法輪功（ファールンゴン）は法輪大法（ファールンダーファ）とも呼ばれます。1992年に李洪志氏により伝え出された、心身を鍛える気功修煉です。法輪功の修煉は、「真・善・忍」を理念とし、日々の生活の中で自らを高め、家庭や社会の安定と、人々の健康増進、道徳水準の向上にも、計り知れない効果をもたらします。

一、修煉とは

法輪功は、心性を高める「修」と煉功をする「煉」の2つが含まれます。

1、学法

法輪功の主要な著作『轉法輪』には、修煉に必要な法理がすべて含まれています。『轉法輪』を繰り返し読むことで、深い内包を悟ることができます。

法輪功学習者（以下、学習者）は普段、法輪功の著作を学習することを「学法」と呼んでいます。学法には、注意すべきことが2点あります。

1) 『轉法輪』を読む時、はじめから終わりまで通読すべきで、一部分だけを選んで読むはいけません。途中で中断しても構いません



■法輪功の功法は、公園や公民館などで無料で学べます

が、書かれている順序どおりに読むべきです。

2) 学法の時、いかなる求める心もあってはなりません。心を落ち着かせて繰り返し通読してこそ、「求めずとも自ずと得る」ことができるのです。

学習者は、通読中に生じた疑問への解答が、後ろの章で得られることがあると体験しています。また再び通読すること

で、また新たな疑問が生じ、また解答が得られません。

2、煉功

法輪功は煉功と呼ばれる5セットの功法があります。李洪志先生が書かれた『法輪大法大圓滿法』には功法の特長、写真と動作の説明、付録が含まれます。

二、学ぶには

入門書の『法輪功』または『轉法輪』を通読するか、9日間のビデオ学習講座に参加して、李洪志先生の説法の録画を順序どおり見ます。

『轉法輪』は「論語」と九講の説法から構成され、説法の録画・録音も同じく九講です。

世界中の学習者たちがボランティアで教える煉功場（気功教室）があります。最寄りの煉功場を

探し、「9日間のセミナー」が開かれていれば九講の説法を全て聞き、5セットの功法を学ぶことができます。

煉功場では皆で煉功し、正しい動作を学び、学習者が間違いを直してくれるため、効果が高まります。続けて参加することで惰性を克服しやすくなります。

周りに煉功場がない方は、李洪志先生が功法を教えている録画ビデオを見ながら独学することができます。毎日煉功する時、法輪功の煉功音楽に合わせて煉功しましょう。

また、インターネットで、オンラインレッスンを無料で受講することもできます。煉功の動作を学ぶだけでなく、書籍と一緒に読むグループもあります。

初めての方へ：

法輪功の活動はすべて学習者たちがボランティアで無料で行っています。ビデオ学習講座、功法レッスン、修煉体験交流会など、修煉の純正さを保つために、料金を取る行為を絶対に禁じています。もし有料のものがあれば、それは決して法輪功が開催したものではありません。

5セットの煉功動作



①佛展千手法

②法輪樁法

③貫通兩極法

④法輪周天法

⑤神通加持法



オンラインレッスン
各地の気功教室



『法輪功』（ファールンゴン）

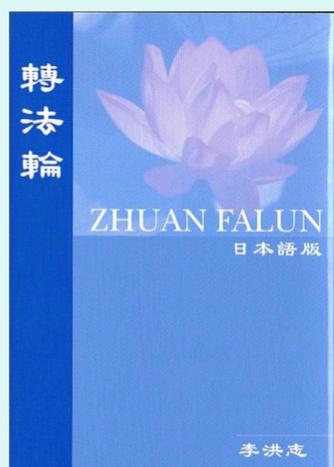
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入

2024年3月、13人の法輪功学習者が 迫害で死亡したと判明

中共による迫害で、13人の学習者が亡くなったと2024年3月に判明した。死亡した学習者たちは、いずれも生前に中共による不当な連行や嫌がらせ、拷問を受けた（うち11人は不当な判決、労働教養処分を受け、2人は連行と嫌がらせにより放浪生活を余儀な

くされた）。学習者が受けた拷問は、虎の椅子や鉄の籠、手足枷、暴力的な殴打、凍えさせる、電気ショック、熬鷹（睡眠剥奪）、体罰、強制的な灌食、強制的な薬物注射と投与、独房での監禁、地環枷（地面に固定した輪に手足を

鎖で留める）、伸刑（体を四方に引っばる）等。

河北省の王懐さん 迫害され死亡

河北省張家口市の学習者・王懐さん（男性）は、かつて懲役7年の不当判決を受けたことがあった。そして長期に

わたり肉体的、精神的、経済的に迫害され、2024年3月9日に70代で亡くなった。亡くなる2日前の3月7日午後3時30分、コミュニティの2人と男性警官1人が王さんの家に来て、脅迫や嫌がらせをしたという。なお、中共は王さんの年金支給を停止したため、王さんは退職して15年間、年金を受給できなかった。

王さんは会社員で、1995年に法輪功の学習を始めた。しかし王さんと妻・劉秀梅さんは、かつて自宅から警官20数人によって連行され、橋東公安分局で虎の椅子に60時間ほど縛り付けられ、睡眠を剥奪された。

2001年7月17日、王さんは橋東区裁判所から懲役7年の判決を言い渡され、保定刑務所に送られた。服役中の王さんは、刑務官の指示を受けた受刑者に何度も殴られ、命を落とすところだった。また拷問により、50代だった王さんの歯は全部ぐらぐらになった。王さんの家族は、7年間で2回しか王さんとの面会が許されなかった。

刑期を終えた王さんは自宅に戻ったが、派出所の警官やコミュニティの職員に監視されていた。

計16年間拘禁された 馬雄徳さんも世界

寧夏省吳忠市の学習者・馬雄徳さん（男性）は、法輪功の真・善・忍の信念を堅持していたため、中共から繰り返し迫害を受けた。2年の労働教養処分と計14年に及ぶ3回の懲役、合わせて16年にわたって拘禁されていた。

2022年8月29日に石嘴山刑務所から出所した際、刑務所で受けた拷問により歩行困難となっており、反応も鈍く、恍惚状態、失禁の症状が現れた。そして、1年以上苦しんだ後、2024年2月25日に75歳でこの世を去った。

1999年7月20日に中共が法輪功に対する迫害を開始して以来、馬さん夫婦は何度も連行され、家宅搜索、労働教養、不当判決の迫害を受けた。馬さんが拘禁されていた期間の年金の支給は停止され、支払われることがなかったという。



■拷問のイメージ図：虎の椅子

80代女性に不当な懲役刑と罰金

南京市在住の80代の耿迎鳳さんは、法輪功を学習しているために現在も常州女子刑務所で服役中。しかもさらに罰金3万元と裁判費用1万5千元の計4万5千元（約90万円）を科された。家族は子供の学費も払えなくなり、非常に困窮している。

耿さんは1996年に法輪功の学習を始め、真・善・忍の原則に従って行動を律している。やがて関節周囲炎や坐骨神経痛、偏頭痛、関節リウマチ、婦人病などが服薬せずに治った。

立て続けに不当な懲役刑と罰金

耿さんは2017年8月15日、自宅にいたところを警官らに不当に連行され、靖江市公安

局の留置場に16日間拘束された。

同年12月7日、耿さんは靖江市裁判所に連行され、裁判にかけられた。しかし判決は下されず、20日間拘留された後に釈放された。

2018年3月22日、当時80歳だった耿さんは、靖江市裁判所に禁固3年の不当判決を言い渡された。しかし健康上の理由から泰興刑務所が耿さんの受け入れを拒否したため、拘禁期間2年を残したまま「保釈」された。

2019年8月26日、耿さんを含む4人の年配の学習者（女性）が高新園派出所に連行された。同日、耿さんの夫（86）も連行された。

その後、耿さんは南京市雨花台区裁判所で、元の刑期の残

り2年に加え、さらに懲役2年を言い渡された。耿さんは常州女子刑務所に収監され、合わせて4年の刑に服することとなった。そして罰金3万元と裁判費用1万5千元の計4万5千元（約90万円）を科された。

中共が繰り返す迫害

2012年11月6日、靖江市と南京江寧区の国内安全保衛部門（法輪功迫害の実行機関）の警官らは耿さんの家に押し入り、耿さんを連行した。その後、耿さんは不当に3年の懲役を言い渡された。3年間の獄中生活で、耿さんはあらゆる虐待を受けた。

そして2015年6月に耿さんが、法輪功への迫害を決定した故・江沢民国家主席を最高検察院と最高裁判所に告訴す

ると、さらなる嫌がらせと迫害を受けた。

耿さんは2025年6月に刑期

が満了する予定だが、現在も刑務所での拷問に苦しんでおり、家族はとても心配している。

『明慧二十周年報告書 中国で起きている 20年間にもおよぶ法輪功への迫害』



過去20年間、中国本土の法輪功学習者が直面してきた迫害状況の記録。
中国共産党が他国の指導者や企業を脅迫することにより、海外まで迫害の手を拡大してきた実態が記されている。

PDFファイルの無料ダウンロード



日本各地の中国大使館・領事館前で迫害停止を訴え

日本各地の学習者は4月25日、東京や大阪、名古屋、福岡、札幌の中国大使館・領事館前で、中共による法輪功への迫害の停止を訴えた。この訴えは、学習者が平和的に陳情した「4.25」の25周年として、平和的で穏やかに行われた。

名古屋 中国領事館前

中部地区の学習者は午前9時から午後1時まで、名古屋の中国領事館前で訴えた。横断幕には「法輪大法は素晴らしい」「真・善・忍」「SOS 法輪功迫害を停止」と書かれていた。

平日だったため、早朝に訪れた学習者もあり、長野県から駆けつけた学習者もいた。学習者の願いは、真・善・忍を理念とする法輪功への迫害を止めることである。

各地の学習者の声

活動に参加した徐さんは「迫害は、25年続いています。中国の学習者は、今もお迫害を受けており、（強制的に）臓器を摘出される場合さえあります。世界中の人々に呼びかけ、中共による残酷な迫害を止めるべきです」と語った。

東京の学習者・汪喜洋さんは、母と妻が治療できない病気を患っていたという。しかし二人が法輪功を学習して健康状態が改善したことから、汪さんも法輪功の学習を始めた。

汪さんは「私は性格が荒く、家族関係もうまくいきませんでした。ですが法輪功を学習して気性も穏やかになり、家族関係も改善しまし

た」「中共の迫害を終わらせたいと願っています。家族に大きな災難をもたらしたからです。母が迫害されたのです。多くの人々が目を覚まし、中共から脱退することを願っています」と語った。

福岡の学習者・従さんは「2016年に法輪功の学習を始めました。私の人生は、明るくなりました。気性も改善し、怒りを感じなくなりました。25年前、中共は法輪功への迫害を正当化するために、4.25の学習者の平和的な陳情を『中南海（中共の中核があるエリア）を包囲した』と中傷し、残酷な迫害が始まりました。私たちは今日、中国領事館前に来ました。この迫害を終わらせたい」と語った。



■東京の大使館前で迫害停止を訴える学習者

中国問題に関する米連邦議会・行政委員会 4.25の25周年に声明

中国問題に関する米連邦議会・行政委員会（Congressional-Executive Commission on China 略称: CECC）は4月25日に声明を発表し、学習者による（1999年）4月25日の平和的な陳情25周年を迎え、中共が25年間続けてきた法輪功への迫害の終結を求めた。

CECC委員長のクリス・スミス米下院議員（ニュージャージー州）と共同委員長のジェフ・マークリー米上院

議員（オレゴン州）は声明で、「25年前の今日、法輪功学習者は北京に平和的に集まり、信仰を实践する自由を求めた。しかし、中共は彼らに拘禁、拷問、嫌がらせを繰り返してきてきた。中共は四半世紀にわたる法輪功への迫害をやめなければならない」と述べた。

一方、4月23日正午、米ワシントンDCの学習者は、下院のレイバーンオフィスビルで映画を上映した。この映

画は、中共による法輪功への迫害を取り上げたもので、議会スタッフや市民が集まった。観客は、迫害の残酷さに衝撃を受けたという。

映画のシーンで、25年前の4月25日に北京で1万人以上の学習者が平和的に陳情していたのを見たブラウンさんは、「（学習者の）平和的な陳情こそが、中共政権の悪を暴いていると思います」と語った。



■CECCの委員長の共和党下院議員クリス・スミス氏（左）共同委員長の民主党上院議員ジェフ・マークリー氏（右）

米務省 人権報告書で 中共の人権侵害を非難

米務省は4月22日、『2023年の国別人権報告書』を発表した。同報告書では引き続き、中共による人権侵害を非難した。

中共によるジェノサイドを非難

同報告書では、中共が学習者や宗教団体への人道に対する罪や、新疆ウイグルの人々に対するジェノサイドを続けていると非難している。

ブリンケン国務長官は世界人権宣言が採択されて75周年

を迎えたと述べ、「すべての人は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利において平等である」と述べた。

また長官は「自由と人権の擁護は米国の国益にもつながる。人権を尊重する国は平和、安定を達成する可能性が高い」と述べた。

不当拘禁されている人々

また同報告書では、刑務所等に拘禁され、人権を侵害されている人々にも言及している。

具体的には、山東省勝利油田のエンジニア周徳勇さん、作家の楊茂東さん、活動家の王秉章さん、陳建芳さん、黄奇さん、学習者の周徳勇さん、人権弁護士の高智晟さんらが政治犯として拘束されているという。

そして中国政府のインターネット検閲を回避するために「Ogate」と呼ばれるソフトウェアを使用したとして、何秉剛さんと婚約者である張一波さんがそれぞれ懲役6年と5年の不当な判決を受けたという（何さんは拷問を受け、歩行能力を失った）。

臓器収奪を非難

さらに同報告書では、学習者や新疆ウイグル自治区のイスラムの人々から、中共が強制的に臓器を収奪していることも非難した。なお、『エポックタイムズ』の昨年8月

の報道でも、1994年に起きた強制的な臓器摘出事件について、法輪功が臓器供給源であることを明らかにした医師の会話を報じた。



■『2023年の国別人権報告書』を発表するブリンケン米務長官（写真出典：米務省公式サイトより動画スクリーンショット）

中国古典名作『封神演義』

中国古典の『封神演義』は、人々から愛される名作です。物語は、姜子牙（きょうしや）が紂王（ちゆうおう、殷朝最後の王）を討つことを中心に展開されますが、著者が伝えようとした意図は何でしょうか？以下に4つ挙げてみます。

第一の意図

第一、師と法を信じる：物語には、次の出来事が描かれています。姜子牙の師父の弟弟子（注釈：姜子牙の師父は元始天尊であり、その弟弟子は通天教主）は弟子たちに、師父の許可なく山を下りないように忠告し、さもなければ災難に遭うと警告しました。しかし弟子たちは師父の許可を得ずに山を降りたため、千年の修行を失いました。修煉者にとって重要なのは、師の言葉を聞くことであり、聞かなければどんな結末が待っているかを考えるべきです。

第二の意図

第二、師に敬意を払い教義を尊重：師と法を信じる



ことが重要であるなら、師と教義に対する敬意は特別な意味を持ちます。紂王は非道で実の息子である殷洪と殷郊を殺そうとしましたが、広成子と赤精子は二人を救い出し、彼らを弟子として受け入れました。しかし、この二人（広成子と赤精子）は約束を破って紂王に寝返りました。姜子牙は彼らの生命を救った恩人でしたが、彼らは姜子牙を殺そうとし、最終的には師父に

さえ手を下すという冒流的な罪を犯し、厳しい天罰に遭いました。ひとたび師と仰いだならば、一生自分の父親のように大事にすることを覚えておくべきです。

第三の意図

第三、慈悲と寛容、無私無我：姜子牙は神を封ずる中で、彼を害そうとした師父の兄弟弟子も神として封ずることになりました。姜子牙は彼らの良い側面だけを

見て、過去の過ちを気にしませんでした。姜子牙は他人のことだけを考えましたが、修煉者は皆、このように振る舞うべきです。ここで語られているのは、個人的な恩恵や対立を気にしない態度です。天理に反する者は、最終的には天理の罰を受けることでしょう。

第四の意図

第四、立場の選択：『封神演義』は善悪の戦いを描

いた物語です。神々は自分の立場を選びました。姜子牙と共に歩むことを選択すれば、正義を選んだことになります。正義を選ぶことは生き抜くことであり、悪を選ぶことは永遠の絶望につながります。

『封神演義』の著者である許仲琳は、早くから世界に対して、自分の立場を選ぶことが必要であり、その選択は個人の意思によるものだと言っていました。

先史文明の人類の足跡

インターネット上では、法輪功の書籍で言及された先史文明の事例の信憑性を疑問視する意見が散見されます。インターネットには詳細な情報がなく、悪意からの誹謗中傷の記述が人々の認識を混乱させていることもあるため、比較的完成度の高い立証資料として以下のようにまとめてみました。

人の靴跡がある三葉虫の化石

アメリカで1968年、人の靴跡がある三葉虫の化石が、ウィリアム・J・マイスター氏によって発見されました。この靴跡は、一般的な成人男性の靴のサイズにぴったりでした。1968年6月13日、日刊紙『The Deseret News』がこの

発見を報じると、科学者が詳細な調査のために現地へ赴きました。

三葉虫は5～6億年前に出現し、2億4000～6000万年前に絶滅した古代生物です。人類と三葉虫が同時期に生きていたことを示すこの化石の発見により、進化論に矛盾が生じました。しかし進化論を擁護する地質学者は認めないだけでなく、「私はそれを壊すつもりです」と言った地質学者もいました。

地質学者のリーランド・J・デイビス氏は、化石の発見場所が間違いなくカンブリア紀の岩石であることを立証し、ユタ大学の冶金学教授であるメルビン・A・クック氏は「人類の足跡の化石の中で、最も際立った標本である」と評価しています。

他の地質学者も多くの足跡の化石を発見しており、そのうちの一つは裸足の子供のものでした。科学者のコーデル・ヴァンヒューズ氏はダイヤモンドチェーン

ソーを使ってこの化石をスライスし、足跡の真偽を分析しました。手で彫られたものであれば、内部構造に、踏んだときにできる圧力線がないはずですが、分析した結果、内部の筋の模様がフットプリントの窪みの形状と一致しており、間違いなく実在した子供の足跡の化石でした。

先史時代の人類の足跡

先史時代の人類の足跡の化石は、多くの地域で発見されています。ここでは三つの例をご紹介します。

(一) ネバダ州の靴跡の化石：ネバダ州フィッシャーキャニオンで発見された靴底の化石です。この化石は三疊紀の地層に由来するもので、2億5000万年前から2億5000万年前まで遡ります。

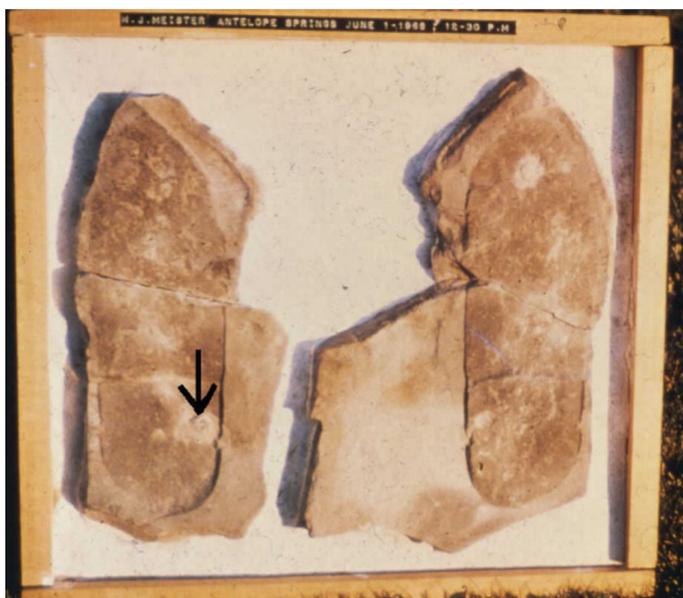
(二) サパタの足跡：ニューメキシコ州のロブレド山脈で発見された足跡の化石です。ペルム紀の地層

から採取されたもので、2億4800万～2億9000万年前まで遡ります。

(三) ロックカッスル郡の足跡：ケンタッキー州ロックカッスル郡で発見された足跡の化石で、石炭紀の砂岩の中にありました。3億2000万年前～3億6000万年前のものでした。

失われゆく先史文明の史跡

こうした化石はたくさんありますが、注目すべき点は、先史文明の史跡の多くが破壊されていて、残っているのは主に個人のコレクターによって保護されたことです。例えば、アメリカテキサス州のグレンローズ地区にはかつて、人間の足跡に恐竜の足跡も混じっていた遺跡が大量に残っていたとされますが、1970年頃にダイナソーバレー州立公園が政府によって建設された際、人間の足跡の部分が破壊されてしまったのです。



■人の靴跡がある三葉虫の化石

写真特集



- ① トルコのイスタンブールの真善忍美術展（2月16日～25日）で、印象に残った絵画の前で記念撮影するジャネットさん「私は、真実を知りました。非常に良い機会でしたし、とても意義深いものでした」
- ② ルーマニアのオクネレ・マリ塩鉱で3月24日、学習者は5式の功法を実演し、観光客に法輪功を紹介
- ③ 太平洋の島国フィジーで3月23日、学習者は法輪功を人々に紹介。法輪功を学び、学習者と記念撮影する学生達
- ④ フランスの展覧会（3月22-24日）で功法を体験したレティシアさん（右）「すぐにリラックスできたと感じました。煉功動作は美しくて穏やかで楽しいものでした」
- ⑤ ベルギーのアントワープ市で3月23日、功法を実演し、中共による法輪功への迫害について伝えた。ルーヴェン大学の学生・ティアンカさん（左）と友人はアルバニア特有の手振りで法輪功を支持
- ⑥ 王毅外務大臣がオーストラリアを訪問期間中の3月20日と21日、首都キャンベラとシドニーで集会を開催。首都特別地域の司法長官シェーン・ラッテンベリー氏（右）とオーストラリアの法輪功のスポークスマン、ジョン・デラー氏（左）がスピーチ

『明慧インターナショナル・30周年特別号』



法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、1億人に愛好されている現在までの状況を紹介。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

無料ダウンロード
PDFファイルの

